

今月の便り

トキソウ

トキソウ（朱鷺草）は北海道から本州、四国、まれに九州の日当たりの良い湿原や湖沼に見られる湿地性の植物でその花の色が朱鷺の翼の色に似ていることからトキソウとつけられました。淡いピンクが美しい花です。ラン科特有の花で唇弁にとげ状の突起が目立つ花を茎の先に一輪咲かせます。茎の中ほどに葉が1個付き地下に横に這う根茎があります。花期は北海道では6～7月で高さは15～25センチほどです。この花もまた湿地の開発や乾燥化、園芸・販売目的の採集で数を減らしています。ヤマトキソウ（山朱鷺草）は山地に生育するトキソウ（朱鷺草）の意味でトキソウの花は開くのに対してヤマトキソウの花はほとんど開かず花色も淡く白に近い色で高さも低くなります。またヤマトキソウは花期が少し遅くて7月～8月です。どちらも数年前になります。トキソウは長万部静狩湿原で、ヤマトキソウは函館の恵山の麓で出会うことができました。

(いとう)



季節の代名詞 アジサイ

幼い頃から目に触れて広く愛され続けるアジサイの魅力はなんでしょう。ふんわりと咲く姿？可憐ながら丈夫で長い花期と色の多様性などでしょうか？雨とアジサイってお似合いのシーンになりますね。アジサイは戸外で育てますが、鉢植えは一回り大きな鉢で水はけの良い土で鉢増ししましょう。地植えの場合は、明るい半日陰程度の場所で風通しの良い場所が適しています。アジサイはお水が大好きです。花や葉がくたっと水切れを繰り返すと株が弱ります。お手入れ方法は花が終わる7月に枝を花ごと切りましょう。大株に育てたければ浅めに切りコンパクトにしたければ半分ほどに切ります。アジサイは枝の上部の芽が花芽になります。花がつかなかった枝も切り戻して、翌年の開花を促しましょう。多種多様なアジサイが販売されていますのでお気に入りを見つけることも楽しみです。

(たかはし)

腐葉土の必要性

腐葉土は、植物が育ちやすいように土の状態を改良してくれる「堆肥」のひとつです。広葉樹などの落ち葉を微生物が細かく分解することで腐葉土ができます。腐葉土は赤玉土などの基本用土に混ぜて植物の培養土として使うのが一般的ですが、あくまで改良用土であって、腐葉土自体に栄養効果はありません。しかし、炭素分が多いことで土づくりに貢献してくれる優秀な資材なので、野菜などの植物が病気になりづらいうという効果が期待できます。腐葉土を基本用土に混ぜることで、土の中の微生物が増えて、土壌の栄養分を増やす効果があり、痩せた土を蘇らせてくれます。腐葉土は、野菜の栽培や庭の土作りに役立つ資材です。品質のいい腐葉土を選んで、土壌改良に活用しましょう！（ながやす）

パンジー とビオラのその後

春の花として欠かせないパンジーとビオラは暑さには弱いので、そろそろ徒長したりお疲れ気味で、売れ出されている夏の花苗との植え替えをされている頃だと思います。まだ元気な株は半分ほどに切り戻して半日陰の涼しいところに。生育適温の上限は20度ぐらいです。一年生草扱いですが環境が良ければ生き延びて次の年も楽しめます。こぼれ種子から出た芽を見つけてそれを育てるのも面白いと思います。お子さんがいる方は一緒に楽しんでみてください。花を長く綺麗な状態に保ちたいければ毎日の花柄摘みをしてタネを付けさせないようにしましょう。葉の色が薄くなった時は液肥をあげてください。(きのした)

【室内公園「色彩館」からのお願い】 当館では植物の引き取りを一切行っておりません。あらかじめご了承ください。処分してしまうのが心痛いのであれば、そうならないように樹形や樹高、特性などを考え計画的かつ責任を持って購入・栽培してください。育て方で分からないことは、当館の緑の相談コーナーへお気軽にお問い合わせください。

緑の相談コーナー Q & A

Q 毎年ナスを植えているが木が大きくなり、実の数も少なく皮が硬いのはなぜ？

A ナスは連作を嫌います。毎年同じところにナスだけではなく、ナス科のじゃがいも、トマト、ピーマン、ししとう、唐辛子などものを植えていると成長に支障をきたします。ナスは水で育つというくらい水を好みますので、毎日大量の水やりが必要です。ナスは収穫期間が長いので、追肥を切らさないようにします。ナスは剪定が必要で放置していると木は大きくなっても実がつきにくいです。

Q ニンジンが発芽しないのはなぜ？

A 発芽しないしなかったり、一部しか出ない場合は次のことが考えられます。

- ① 種は新しいものを使用すること
- ② 種をまいた後、覆土が薄く鎮圧が弱いからです。

高確率でニンジンを発芽させるコツは、種をまきましたら5mmほど土をかけて、足で踏むか手で押さえつけ鎮圧します。なお、踏んで良いのは土が乾き気味の時だけで、雨降りの後、土が湿っている時に踏みますと、土が締まって酸素不足になり、かえって発芽を妨げてしまうので注意しましょう。



ひとつき ひとバラ



文： 曾根浩太
(いわみざわ公園バラ園)



第百十四回

原種交雑種

ロサルブリフォリア'カルメネッタ'

Rosa rubrifolia 'Carmenetta'

作出国：カナダ

作出者：Isabella Preston

作出年：1923年

ハーディネスゾーン：Z2

繰返し咲き

交雑：Rosa rubrifolia × Rosa rugosa

今年は暖かくなったと思ったらしばらく寒い日が続いたりとなんだか体調を崩してしまいそうな気候ですね。そんな中でもバラは着実につぼみが付き、咲くのが待ち遠しくなってきました。今回は整形式の外周に植栽されているロサルブリフォリア'カルメネッタ'を紹介したいと思います。カルメネッタはルブリフォリア(グラウカ)とハマナシの交雑によって生まれた品種です。姿形はほぼ基本種のルブリフォリアに近いですが、高さも幅も2mを超す大型に育ちます。これだけ大きいとお庭に植えるのはためらってしまうかもしれませんが、親のルブリフォリアから受け継がれた赤軸の枝や灰色がかった葉はとても美しく、花が咲いていなくともお庭で活躍してくれるバラだと思います。広く空いているスペースを埋めたい時にはカルメネッタ。高さは欲しいが幅はそんなにスペースがない場合は基本種のルブリフォリアを使用すると思います。両親のどちらもがかなり耐寒性の強い品種。カルメネッタもその性質を引き継いでかなり耐寒性が強い品種です。冬囲いは枝が折れないようにするだけ

で大丈夫。反面、暑さには弱く、暑くて葉を落とすこともあります。耐病性もそこそこあり、無農薬で育てても葉が全部落ちるといってもありません。よく結実する品種でもあり、鈴なりに実をつけることから親の基本種のルブリフォリアは日本で「鈴バラ」とも呼ばれています。カルメネッタになっても実のなり方は変わらず、秋には鈴なりの実を楽しむことができます。花は一重の小輪。ピンクで中心が白い花びらに黄色の蕊が目立つ花です。灰色がかった葉にピンク、黄色の色味が映えます。基本種ともほぼ差異はなく、見比べても見分けるのが大変です。名前のルブリフォリアはラテン語で「赤い葉」を意味しています。カルメネッタは調べても出てこなかったのですが、出てこないということは固有名詞かなあ…人の名前か地名か…とか色々考えてしまいますね。わからないのが悔しいです。剪定も枯れ枝抜き程度でよく花が咲き、育てやすい品種です。色も庭に変化をつけさせてくれるのでぜひ実際に見に来ていただけたらと思います。

いわみざわローズフェスタ 2024

iwamizawa Rose Festa

6/22 (土) ~ 7/21 (日)

約4ヘクタールの敷地内に
約630品種が咲き誇る!

今月の市民園芸講座のご案内



- 6月22日(土) 10:00~12:00 ばらゼミ④
料金:無料 定員:40名 講師:バラ園スタッフ
- 6月23日(日) 10:00~12:00 バラの美しい写真の写し方
料金:無料 定員:20名 講師:河野 芳廣さん
- 6月29日(土) 10:00~12:00 バラ管理スタッフのローズツアー
料金:無料 定員:40名 講師:バラ園スタッフ
- 6月29日(土) 13:00~15:00 バラ園のバラを使ったアレンジメント
料金:2,000円 定員:20名 講師:大和田 由紀子さん
- 6月30日(日) 10:00~12:00 バラ園でスケッチしよう
料金:無料 定員:15名 講師:藤川 志朗さん

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話:0126-25-6111 ホームページ:<https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申し込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3~4日位前までにお申し込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。